

---

# 鉄筋コンクリートの妖精

津軽 あまに

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鉄筋コンクリートの妖精

### 【Nコード】

N05170

### 【作者名】

津軽 あまに

### 【あらすじ】

気がつけば男の目の前にいたのは、鉄筋コンクリートの妖精だった。ギヤグときどきファンタジー。くだらない文章への耐性のある方へ。

「鉄筋コンクリートの妖精です」

今、理解不能な単語が聞こえた。

言語野が理解を放棄したので、とりあえず目の前にいる怪しげな物体をつねってみる。

口とおぼしきところの脇を掴むと、むに、と意外とやわらかかった。

「のーっ?! 曲げモーメントはだめえ?! 曲げ引張破壊は嫌ーっ?!」

じたばたとするさいので手を離す。

なぞの物体の頬を引っ張ったら痛がったので、夢ではないらしい。

「いや、その確認方法には盛大に文句をつけたいところでありすが。って、連続つねひっぱりはホントらめーっ?! 曲げ圧縮破壊とか起きますからーっ?!」

というか、鉄筋コンクリートの妖精とはなんなのだ。

妖精というところ、もつとメルヘンに、木とか花とか、百歩譲って石くらいの自然物に宿るものではないのか。

それが、鉄筋コンクリートなんて人工物だ。

コンクリートだけならまだいい。あれは砂だの砂利だのを混ぜたものだ。

そういうモノに宿ったものが悪魔合体して怪しげな妖精コンクリートが発生するならコンゴトモヨロシクしてやらなくもない。

鉄だけでも許容範囲内だ。鉄を鍛えた刀なんかであれば、妖精と

か宿つてもいいくらいだし。

いやむしろライトノベル的には大いにアリだ。刀の妖精。できれば可愛い娘さん希望。

「話題を盛大にもどせと私は盛大に抗議します。話の筋がずれるのは個人的には許せません。鉄筋コンクリートだけに」

あ、うまいこと言ったドヤ顔。

「くつ。ほつといてください。で、鉄筋コンクリートの妖精のどこがダメなのですか」

そもそも鉄筋コンクリートなんて人工物の極みではないか。

これだけ自然物から離れておいて、ファンシーメルヘンな妖精さんが発生するなんて無理にもほどがある。

「刀とかめちやくちや人の手入ってるじゃないですか」

刀は男の浪漫なんだよ。人は刀に萌えられるが鉄筋コンクリートには萌えられない。よって妖精はいない。以上。

「いや、そのりくつはおかしい」

なんだ、反論があるなら聞いてやっても構わないが。聞くだけだけど。

「鉄筋コンクリートはですねえ、努力家なんですよ！ コンクリートが最大の弱点である引張り力に耐えるため、肉体改造を重ねた試行錯誤が苦心ン十年。それでもなお超えられない力の壁を越えるため、耐えがたきを耐え、偲び難きを偲び、自分一人では戦えないと

いう事実を認め、夕陽の川原で殴りあつた戦友<sup>トモ</sup>、鉄筋とタッグを組んで超絶合体。結果、さまざまな力に勝利するタフネスを手に入れる……。ほら、努力！ 友情！ 勝利！ どこぞの少年漫画もびっくりな熱血展開じゃないですか！ 妖精の一人や二人生えてきても文句はないでしょう！」

くっ。意外と熱い背景を持ってやがったこの無機物。

背景を深く語ると悪役でもかつこよく見える最近の死神系少年漫画で流行のマジック。

「ふ、私は一本筋の通った妖精なのです。鉄筋コンクリートだけに」  
だが無機物よ、それは死亡直前の線香花火的な輝き、つまり死にフラグだ！

「……………なん……………だと？」

ああ、おまえも好きなのね、某死神少年漫画。

「いいじゃないですか。主人公の心的世界のビル、あれ絶対鉄コンですよ。あと、13キロ伸びるかと思ったらまったくそんなことなかったぜーな刀の見せ場でも、鉄筋の断面がこれでもかつと露出してエロチシズムでしたし。あの作者さんは鉄コンの色気をわかっていらっしやる」

絶対勘違いだと思っがな。

「……………うう、厳しいです。どうせ私なんて、さび付いて 壊されるばかりなんです。昔はよかったです。家鳴りなんていえば昔はありがたがられて何度でも修理してもらえたけれど最近では幽霊だホラ

「だラップ音だとか言われてすぐ壊されてしまう。サラララップとかネットラップとかトーストラップサンドとかはもてはやされるのに、コンクリートラップ音だけは差別だと思います。これが格差社会というヤツですか！」

格差社会って言葉が重機に乗ってやってきそつな発言な。

「コンボは嫌ーっ！？ 乱暴なのはだめです！ あ、でもスチールボールはちよつと好きかも……」

そこで頬を赤らめるな無機物。貴様の歪んだ性癖などカミングアウトされても誰が得をする。

「いや、全国一千万人の鉄筋コンクリートマニアのみなさまが」

いねえよそんな。この脳筋。鉄筋コンクリートだけに。

「ああつ、芸風をばくられた！？ …… まあ、元氣に見えても、私も年ですから、そろそろ、最期のこととも考えないといけないんですけどね」

なんだよ、急に神妙な顔になって。

「なんだかんだで世の中銭やでー、ですから。古きを残す、とか、流行らないんでしょうね。ほら、私は妙に近代っぽいから、木造みたいに大事にしてもらえないし。校倉さんや合掌さんみたいに年季が入ったところだと、かえって大切に可愛がってもらえるけど、私には無理だから」

こら、辛気臭い顔するな。まだびんぴんしてるじゃないかオマエ。

「いいんです。自分のことは自分が一番わかっているんですから。化粧のノリは悪くないけど、中身はぼろぼろなのですよ。昔は黒くて艶々してた鉄筋<sup>カミ</sup>も、今は錆びて赤茶色。あはは、ギャルっぽい妖精とか、ありえないですよー」

「……それがどうした。オマエは、これまで頑張ってきたんだろ？友情、努力、勝利なんだろ？ だったら逆転してみせるよ！  
一本筋を通すのが鉄筋コンクリートなんだろっ！」

「……ありがとう。最後に会いに来てくれたのが、あなたみたいなお人よかった。えへへ、本当は最後、華々しく腹マイルトで木っ端微塵とかが憧れの終わりだったんですけど。でも、ダメなんです。私、アスベストが入ってるらしくて。だから、しばらくみつともない姿を晒しちゃうんです。だから、あなたはこの姿だけ覚えて、できればもう二度と、ここにはこないでください。明日から、立ち入り禁止って話ですしね」

「なんで、そこでそんな、悟ったような顔で笑っちゃうんだよ！」

「決まってるじゃないですか。私を出て行った子供たちは、みんなこうして、笑っていたんですから。覚えていないかもしれないけど、あなたも」

「なっ……」。

「だから、お別れなのです。ありがとう。たとえ気まぐれでも、こんな場所にまた、足を運んでくれて。さあ、踵を返して駆け出してください。そんな顔をしないで。もたもたしていると、疲労破壊とか起こしちゃうぞっ？」

……意識が覚醒する。

どうやら、相当に酔っていたらしい。

頭を振って振り返ると、かつての母校。

廃校の決まった、古びた鉄筋コンクリートの建物が、そこにあった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0517o/>

---

鉄筋コンクリートの妖精

2010年10月11日04時29分発行